

真声会 会報

第 50 号

2010年 5月15日
発行

発行所
真声会

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13番地の6
京都市立芸術大学音楽学部内 TEL (075) 334-2222
同窓会事務局 TEL (080) 6185-4494
e-mail : shinsei@kcuu.ac.jp

会長が学長と会談しました

去る4月21日、大村益雄真声会会長（1期作曲）が西島安則芸大学長を訪問し、山本毅音楽学部長（24期打楽器）、廣野貴夫事務局長を交えて、京都市立芸術大学のこれからについてお話を伺いました。

今年、京都市立音楽高校が、堀川御池の地に、京都堀川音楽高校として装いも新たに移転し、京芸にとっては悲願の、芸術を統合する施設が京都市の中心部にできました。これまで、京都でいろいろな音楽グループが活動をしてきましたが、お互いの連携が少し物足りない状態でした。西島学長は、音楽をする者たちは、本当はみな親類、同根であるのが、ばらばらになっている現状を指摘され、この施設が受動的な存在ではなく、能動的、積極的に、それぞれの活動を上げていく場として機能していくこと、また、京芸もここで演奏会を活発に行い、新しい京都の芸術を作る中心になっていけるように参画し、京都の芸術の新しい芽が生まれてほしいと、大いに期待されていました。



独立行政法人化のなかにあっても、山本学部長からは、純粋に芸術を愛し、勉強していこうという人達を守っていかなければならない、いかに研究体制、教育体制を守っていくかを考えなければならぬとお話がありました。また、心の自由があってこそその芸術で、大学は訓練するだけの場ではない、教員と学生と一緒に研究していく場を守りたいとのことでした。学長、学部長とも、人と人の関わりを深めるため、教員と学生がともにいる「時間」を大切にしてほしい、そして、聴衆との良い関係も築いていき、教員、学生たちの研究の場と、音楽を愛する聴衆との距離を縮めていくことが、市民に対する貢献であるとお考えでした。



左から、山本音楽学部長、大村真声会会長、西島学長、廣野事務局長

話の中で「芸術をもっているかどうか、人間が人間であることの証明である。」という言葉が印象に残りました。京都市立芸術大学は130周年を迎えましたが、これからの芸術と、芸術に携わる人たちを支える大学として存在していくことを期待し、真声会としても応援していけたらと思います。

（記：奥田聖子 48期声楽）

卒業式に参列しました

阪田 誠康（16期 ピアノ）

去る3月23日（火）、平成21年度、京都市立芸術大学の卒業式・学位記授与式が、講堂に於いて執り行われ、真声会会長代理で来賓として参列しました。

当日は冷たい雨が降り、天候には恵まれませんでした。大学構内に一歩足を踏み入れますと、正装姿、そして盛装姿の卒業生が溢れ、あちらこちらで写真撮影の光景が見られ、華やいだ雰囲気でした。又、頭にインコを乗せるなど、ユニークな衣装を身に付けて式典に臨む卒業生もおられ、それが如何にも芸術大学の卒業式という気が致しました。

私自身の卒業当時を振り返りますと、気持ちの整理がつかないまま大海に放り出されたような何とも心細い気分を味わったものです。いつの時代も、卒業生にとっては、更なる精進を新たに決意する、という重要な区切り目に違いありません。

座席は、総数二百数十名の卒業生及び修了生、ご父兄、大学職員、関係者でほぼ埋まり、式次第に従って、美術学部と音楽学部の卒業生、院修了生全員の名前が読み上げられ、それぞれの専攻の代表者がステージに上がり、潮江宏三学長より証書の授与が行われ、引き続き学長と門川大作京都市長からお慶びの言葉と共に、これからの時代を担う卒業生へ励ましと今後の大なる活躍の期待が込められた祝辞が述べられました。それに続き、卒業生の答辞は大学への感謝と共に今後の更なる研鑽への固い決意が述べられ、力強く感動的でした。

このたびの、ご卒業をお慶び申し上げますと共に、卒業後も我々と連携を深め、皆様の今後のご活躍が京都市立芸術大学の輝かしい歴史の新しいページに繋がり、多くの人間に感動と力を与え、この社会に貢献されます事を心より願って止みません。



の手で道を切り拓いていかなければならないのだと思った途端、その大きな翼の下で守られ安心してのびのびと過ごした日々がいかに恵まれた環境にあったかということを感じ知らされました。

私は音楽の道に進む決意をし、音楽学部の受験をしたわけですが、本当に作曲家として生きていくべきかどうか揺れたこともありましたが、しかし、先生方のご指導のもと悩みながら曲作りを重ね、演奏家の友人たちに作品を演奏してもらうことを続けるうちに、作曲の魅力を再発見し、もっと追究していきたい、長く続けていきたいと思うようになり、作曲家として生きていくことに迷いがなくなりました。

迷いはなくなりましたが、「さて、次の一步はどうしよう。そこから先は……」と考えると目の前には次々と壁が待っているという気がします。経済的な自立などということになると、厳しすぎて考えるのも怖いほどです。

しかし、何にも代え難い、自分を表現し自己実現できる道をやっと探り当てたこと、この小さな自信を頼りに、今後は迷いながらも、自分を信じて自分の心と向き合いつつ手探りで道を探って行きたいと思います。同じ音楽の道を行く色々な専攻の友人たちとの出会いは私の生涯の宝物ですが、お互いに刺激し合い、また支え合って共に前を向いて歩いていける仲間存在に、今後の険しい道を行く勇気を得る思いです。

入学式に参列して

4月9日に京都芸大の入学式に出席させて頂きました。

真声会副会長として檀上の来賓席に座するという大役に、身の引き締まる思いで充実した時間を過ごさせて頂きました。

派手なパフォーマンスも、無駄もなく本当に厳粛な品格のある入学式でした。入試の難関を突破し、背すじをピンと伸ばして真剣に学長先生のお話を聴いている後輩達の姿を見て、心から「がんばるんよ！」と声を掛けたくてしまいました。

式の終了後、新しく学部長になられた山本毅先生のお誘いを受けて、同席下さった佐々木研副会長と共に学部長室でゆっくりお話をさせて頂きました。偶然ですが3人共、打楽器専攻！大いに盛り上りました。今後の真声会と大学との関係や、学生さん達との支援の仕方についても、いろいろとお話しする事ができ、とても有意義な一日となりましたこと、ご報告させて頂きます。

松本真理子（15期 打楽器）

卒業生としての想い

第55期卒業生 北 あおい（作曲）

卒業式から、もうすぐ1ヶ月が経とうとしています。

今頃になってようやく卒業した実感が湧き、京都芸大で過ごした日々を懐かしく思い出し、もう京芸生ではないことに少し寂しい気持ちもあります。京都芸大を卒業して、これからは自分の足で立ち、自分

創立130周年記念事業のためのご寄付をありがとうございました!

前回は創立130周年記念事業のための第2回ご寄付を呼びかけましたところ、会員の皆様から募金として総額680,000円(振込手数料21,530円)にも達する多大なるご寄付を頂き、まことにありがとうございました。

(寄付者一覧)

1期 大村 益雄	6期 山田 勝美	15期 蔵田 由美子	25期 雪原 典子	35期 土居 知子	49期 山内 文
1期 新井 省吾	7期 尾上 玲子	15期 岡崎 登代子	25期 上塚 幸代	35期 加藤 千恵子	49期 久野 泰典
1期 関口 淑江	7期 林 三紀子	15期 青谷 哲也	25期 高橋 環	35期 尾崎 未佳	50期 宮井 愛子
1期 中村 スミ子	7期 戸祭 喜久子	15期 小谷 美智子	25期 水間 満	35期 森 祐理	50期 佐藤 良子
1期 本田 喜美	7期 安野 玲子	16期 田村 登喜枝	26期 坂本 恵子	35期 若林 良輔	50期 波多野 聖子
1期 斉藤 栄子	7期 牛丸 玲子	16期 藤田 武士	26期 大津 佳子	36期 山田 真由美	院18期 近野 賢一
2期 中村 規子	7期 永渕 素子	16期 加藤 葵	26期 小林 斉	36期 安藤 佳子	51期 清原 庸子
2期 小林 芳子	8期 今井 悦子	17期 有川 長吉	26期 富山 姫路子	37期 井澤 美帆	51期 高野 良輔
2期 能勢 恭子	8期 西村 靖子	17期 大嶋 和世	26期 上塚 憲一	37期 浅井 佳代	51期 吉川 右希子
3期 横山 叡子	8期 西垣 淳子	17期 下浜 正子	27期 片山 映子	37期 宮武 晶子	51期 中村 公俊
3期 越賀 和子	8期 蒲地 幸代	17期 皆山 益子	27期 野瀬 規子	38期 宮崎 友香子	51期 御堂 紗恵
3期 中澤 眞代	8期 高野 紀久子	18期 藤原 ひろ子	27期 菅 英三子	38期 柳楽 正人	51期 田中 千佳子
3期 山田 隆子	9期 辻 有紀子	18期 田代 晶子	28期 玉井 幸子	38期 柳楽 由美子	51期 寺下 奈々
3期 吉永 好子	9期 柳原 洋子	18期 彰子 廣瀬 シルバー	28期 持田 富士美	39期 木南 伸子	院19期 平野 佳恵
4期 高橋 寿子	9期 久保 見世	18期 定塚 倫代	28期 黒崎 真琴	40期 細辻 秀美	52期 田中 美由子
4期 石堂 芙美	9期 奥 道子	18期 堀田 百合子	29期 大畑 博貴	40期 今津 陽子	53期 壽 千明
4期 並河 恭子	9期 松村 富也	19期 伊原 道代	29期 赤見 尚子	41期 川村 浩子	53期 藁澤 夏海
5期 山本 家寛	10期 平田 潤	19期 杉中 富久子	30期 寒川 正晴	42期 小川 真由美	53期 伊藤 咲代子
5期 小川 隆宏	10期 江口 洋子	19期 杉中 博	31期 村上 栄子	42期 平野 保子	53期 末岡 希和子
5期 椿 久美子	10期 木下 幸子	20期 井出 悟	31期 三村 由美子	42期 高野 ちか子	54期 今井 彩香
5期 園田 たまよ	10期 石尾 光子	20期 上村 昇	31期 増喜 美紀	42期 谷村 由美子	54期 朴 梨恵
5期 竹内 恵子	10期 佐々木 研	20期 小山 佳子	31期 西園 真理	42期 万代 治子	54期 中村 淳二
5期 寺岡 利雄	10期 大鋸 洋子	20期 酒井 豊子	31期 一海 浩喜	42期 菊田 義典	54期 丁子 充
5期 矢沢 英子	11期 東海 眞子	20期 村上 晃一	31期 坂田 澄子	43期 熊澤 和美	54期 福良 千尋
6期 大野 清子	12期 河村 聖子	20期 長畑 真知子	31期 早川 聖子	43期 藤 美千代	54期 滝 奈々子
6期 大幸 若菜	12期 片岡 祥子	21期 堀 裕子	32期 高橋 知子	45期 山崎 祥代	
6期 北波 裕子	12期 中林 節子	21期 附田 恵里子	32期 奥田 章子	45期 金場 友紀子	
6期 岡田 雛	13期 古橋 弘美	21期 横山 育美	32期 出口 あけみ	46期 神谷 美夏	
6期 村岡 総子	13期 藤井 高子	22期 村上 久仁子	33期 関 晴水	47期 谷口 佳奈香	
6期 改田 麻紗子	13期 中野 容子	22期 菅原 三知代	33期 宮本 克江	48期 藤野 ルミ子	
6期 田村 直子	13期 横江 眞澄	22期 石田 昌代	33期 村上 哲	48期 杉中 景子	
6期 鈴木 量子	13期 大須賀 留美子	23期 中村 力也	33期 北村 千絵	48期 奥田 聖子	
6期 赤井 玲子	13期 松村 千恵子	25期 佐藤 薫	34期 水谷 佳代子	院16期 馬場 眞子	
6期 白石 由紀子	14期 門脇 早百合	25期 平田 道子	35期 阪 哲朗	49期 竹野 有紀	

特別会員 柿沼 敏江
特別会員 神西 敦子

(敬称略)

130周年記念事業「復活」合唱出演者募集

130周年事業のハイライト、12月5日(日)京都コンサートホール第136回定期演奏会の「復活」の合唱出演者を募集します。

合唱団は在学生、卒業生、京都堀川音楽高校生、京都市民により構成されます。

今回は、卒業生からは50名程度の参加となります。出演者には些少ですが交通費程度が支給される予定です。応募者多数の場合は抽選となります。

曲目：G. マーラー 《交響曲第2番〈復活〉》

(指揮：広上淳一[京都市交響楽団常任指揮者])

- 一練習及び本番の日程一
- 9月5日(日) 堀川音楽高校ホール(合唱練習)
- 9月19日(日) 堀川音楽高校ホール(合唱練習)
- 9月26日(日) 堀川音楽高校ホール(合唱練習)
- 10月10日(日) 堀川音楽高校ホール(合唱練習)
- 11月14日(日) 堀川音楽高校ホール(合唱練習)
- 11月28日(日) 堀川音楽高校ホール(合唱練習)
- 12月1日(水) 京都市立芸術大学(リハーサル)
- 12月2日(木) 京都市立芸術大学(リハーサル)
- 12月3日(金) 京都市立芸術大学(リハーサル)
- 12月4日(土) 京都市立芸術大学(リハーサル)
- 12月5日(日) 京都コンサートホール

左記のうち、前日練習・本番を含む5日以上のお出席が必要です。また、本番当日は暗譜です。

ご応募は、以下のメールアドレスもしくは真声会宛に、お名前、卒業期、パート、連絡先をお送りください。お問合せは以下のメールアドレスもしくは同窓会事務室までお願いします。

応募の締め切りは、メールの場合は7月末日、郵送、FAXの場合は7月26日(月)15時です。



kyougei130_fukkatsu@yahoo.co.jp

(復活合唱出演者募集専用アドレス)

(担当：奥田聖子)

音楽学部の今後の事業

- 2010年7月4日(日) 第136回定期演奏会・京都コンサートホール大ホール
- 2010年12月5日(日) 第137回定期演奏会・京都コンサートホール大ホール

美術学部の今後の事業

- 2010年7月6日(火)～8月29日(日) 国立京都近代美術館での美術展
- 2010年9月25日(土)～11月7日(日) 京都市立美術館での日本画を中心とした美術展

「同窓会 大集合！」にぜひご参加ください！

2010年、京都市立芸術大学は1880年の京都画学校設立より数えて130周年を迎えました。2010年7月3日(土)には「同窓会 大集合！」と題し、美術学部と音楽学部の合同により大学創立130周年をお祝いします。今回の会報には、この「同窓会 大集合！」の参加費の振込用紙のみを同封しております。参加申し込みの締切は6月8日です。

創立より130年目のこの一日、京都市立芸術大学の現在(いま)をぜひ感じて頂きたく、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

尚、この間も130周年ご寄付は随時受け付けさせていただいております。

日時：2010年7月3日(土)13時～
場所：京都市立芸術大学学生会館および構内全域
参加費：3000円(お料理、お飲物付き)
(*振込みの受領証が参加申し込み証となります。大切に保管頂き、当日受付にてお示しください)

4年で100人《会員だより》

音楽に支えられた半生

2期声楽 植月一恵

京都芸大(京都市立下音楽短期大学)を卒業して以来五十五年がたち、何と月日のたつのが早いのに驚いております。

昭和三十四年より非常勤八年、常勤三十三年定年後非常勤八年、計四十九念の半世紀に渡り華頂短期大学に勤務し、幼児教育学科と社会福祉学科に在籍して参りました。

丁度高度成長期に入り学生も多く集まり、学校がずいぶん大きくなり設備も充実し立派になりました、派手な謝恩会や卒業式も行なわれ就職も殆んどできる時代でした。こんなに長い間勤められたのも本当に時代が良かったなあをつくづく思っています。

今は音楽を聴いたり昔のビデオを見たり、たまに音楽会に行ったり趣味の編み物をしたり、とゆったりした日々を送っております。

これも親が小さい頃より音楽をさせてくれたおかげと感謝しています。

* * * * *

6期声楽 白石由紀子

私が京芸の前身の市立音楽短大を卒業してから、いつのまにか半世紀の時が過ぎておりました。ある時期まではソロ活動をしていましたが、その後音楽療法に関心を持ち、アメリカでの研修や関連分野の心理学を立命館大、京大の研究生などとして学びました。現在は京都府内5カ所の病院等で約12年間認知症の高齢者を対象に活動させて頂いています。そのときに使う楽曲は主に童謡唱歌と昔の歌謡曲です。しかし初めの頃は歌謡曲に音楽としての価値を認めていませんでした。けれど多くの記憶を失い身近な家族の顔も忘れ、言葉によるコミュニケーション能力も衰えた方達が私が曲を弾き始めると三々五々歌われるのです。歌詞ノートは使いません。時には涙を流しながら歌う方もおられます。毎回20曲ほど歌いますが、歌いながら皆さんどんどん表情が生き活きて、様々な話をされます。一緒に歌うことによって私や入居者の方達との心の絆が結ばれるのを実感してきました。先日3年ほど他の施設に移っていた方が再入居されました。その方は認知症中期の方ですが、私のことを良く覚えていて「いつも最後に“祇園小唄”を歌うてくれてはりましたな。それがなによりの楽しみでした」といわれました。認知症の方は昔聞き覚えた歌を知っているだけでなく、知らない歌でも短い曲ならすぐに覚えて歌っていただけます。人間になぜこのような能力があるのか、科学的にも解明できれば、認知症の治療や予防に寄与することもあろうかと思えます。私はこの活動を通して、全ての人の心の奥深い所に音楽や歌の泉が生来備わっており、それは言葉を越えたもので(トーマス・マンの著作の中に「言語という大理石」という表現があります)認知症の病状かなり進んでも残り続ける人間としての大切な能力の一つということを実感してきました。毎日のように歌ってはいてもまだ歌いたいでコール真声会と長岡京市の合唱団に在籍し、次のコンサートにむけてBrahmsのZigeunerliederとHaydnのSchöpfungの練習に取り組んでいます。

* * * * *

振り返って音楽に感謝

13期声楽 中野容子

卒業と同時に「子どもの音楽教室」その後初等科、保育科、スクーリング等、教えることの好きだった私は、今はもうやり切ったという思いで、近年はバタバタと毎日の生活に忙しくしています。日課として、我が家のジャックラッセル犬の息子の散歩に毎日3・40分、お陰で弱かった足も少しは強くなったように思います。

2年程前迄、先輩の先生と連弾を1ヶ月に一回やっていた楽しんでいましたが、それもお互いの指の老人性関節炎?でしょうか、痛みが出て今は長い

休憩中。

そんな音楽に少し離れた状態の折、先日深夜2時頃、寝る前に何となくテレビをつけると、素晴らしいバリトンの声が聞こえてきました。私は吸い込まれるように聞き入り、その後ピアノ演奏が有り、もっと聞きたかったのですが、3時を過ぎましたので途中でテレビを消しましたが、その時、あの素晴らしい声、ピアノ、音楽に感動して聞き入った自分を久しぶりに嬉しく感じました。

この様に良い音楽を感じる「心」を持っていた事、今迄も何かの節々に音楽をやっている良かったな?とを感じる事、助けられる事が多々あった事、小さい時から音楽と長く関わっていた事に心から「感謝」しています。

* * * * *

ずっと追いつきたい……

22期ピアノ 稲葉由己子

「明日は試験だというのに、まだ譜読みもできてない。ギャー、どうしよう?。」目覚めて一瞬考えて落ちいたら「あー卒業したんだー。」学生時代、もがきながら、自分の音楽をさがしていたのでしょね。

「生徒さんとのレッスン約束の時間なのに、とうてい間に合わない。ギャー、どうしよう?。」目覚めてちょっと考えて気づいたら、「あー夢だったのね。」ピアノ指導も私にとってピアノを弾くことと同様に大きな喜びですもの……。

私の音楽活動の中で、欧州でのソロコンサートを体験できたことは貴重な刺激と感動を得ましたし、アンサンブル、室内楽、コーラス伴奏等の演奏の場やピアノ指導が、音楽の素晴らしさはもちろんのこと、人と人との心のつながりの大切さをいつも感じさせてくれています。

自分の音楽の成長が同時に心の成長でありたいと願っています。

心の成長といえば、真声会京都支部のプロムナートコンサート出演を機に支部役員を務めさせていただいて数年、その中でも多くの先輩や後輩の方々とお話をさせていただき、嬉しい出会いとなっているいろいろ学ばせていただいています。昨秋、初孫が誕生しました。時の経過に驚きつつ、心ときめくこの新たな出会いにも感謝……。

そして、今だに見るあの夢も、より高く自分の音楽を求める心、ピアノ指導や活力や、人と人との心のつながりを大事にする心の表われなのだ信じ、これからも演奏の喜びを大切にしながら、多くの出会いや体験を糧に、自分の音楽の心の成長を追いつけていきたいと思えます。

* * * * *

28期作曲 十河陽一

数年前、パリを拠点に活躍する前衛画家の松谷武判さんを追った記録映画「MATSUTANI」の音楽を担当したのだが、そのインタビューの場面で、ずっと心に残っている彼の言葉がある。「人から影響を受けているうちはまだまだ。自分から影響を受けないと一人前とは言えません」。彼はそう言いながら、自分のスケッチ帳を丹念にめくるのである。私の最新作は、4月に浜離宮朝日ホールで初演される「爛漫の記憶」(ハーモニカ:和谷泰扶、ヴァイオリン:小森谷巧、チェロ:菊池知也)。13年前に和谷さんのために書き下ろした「トリオソナタ1997」を下敷きに、管楽器パートを弦楽器に置き換え、加筆訂正を加えた、言わばリメイクにあたる。古い楽譜を探し出し、読み返してみたとき、日記を読むより鮮烈に、私の脳裏に作曲当時の記憶が蘇ってきた。それは、この曲の中に詰め込まれた多くのアイデアの萌芽をひとつひとつ再発見する度に、大切であったはずのそれらのいくつかを置き忘れ、あるいは放棄してきた自分自身の13年間に思いを馳せるきっかけとなった。私は、松谷さんがスケッチ帳をめくる作業とは、こんなものかもしれないと考えながら、最近一年余りの仕事を振り返ってみる。室内楽や吹奏楽などの「通常作品」のほか、ミュージカル、音楽物語、いくつかの映画音楽など様々な仕事

の同時進行が、自分の中の「ひきだし」が少なかった若い頃には考えもつかなかったであろう、言わば経験の産物であることは確かだ。ただ、人生の中間点を遙かに過ぎた今、これまでに蓄えてきたありったけのアイデアを、ひとつの「ひきだし」につめこんで、力技でまとめ上げるような作品を書きたいという欲求も強くなってきている。長年先送りしてきた宿題のタイムリミットが次第に近づいてきていると感じるからかもしれない。

* * * * *

32期ヴィオラ 小山貴之

近況の報告です。読売日本交響楽団のヴィオラ奏者になって今年で22年目になります。オケ以外にも室内楽やソロの演奏会、指揮者としての活動もやっています！そしてなんとこの私が今年から、2年先輩の高木敏行さんと共に読響の労働組合の執行委員長になってしまいました。どうなってしまうかわかりませんが、やれる事をやって行こうと思っております。大阪でもシンフォニーホールで毎年定期演奏会がありますのでぜひ聴きにいらして下さい。ちなみに今年は5/3、18:00からシンフォニーホールで、新しい常任指揮者のシルヴァン・カンブルランさんと春の祭典、バルトークの2つの映像、他の演奏会でした。どうぞよろしくお祈りします。

* * * * *

46期ピアノ 松田みゆき

春の訪れとともに、思いがけず原稿のご依頼を頂き、現在までの歩みを書かせて頂きたいと思えます。

私は運良く京都芸大に合格出来たものの、進学校の普通高校に通っていた当時、音楽に触れ合う機会は少なく、しかも練習嫌いで、音楽の素晴らしさに目覚めないうま大学に入学し、軽くカルチャーショックを受けました。

皆実技は上手いし、経験も豊富で凄いなあと、どこかで劣等感を感じていたり、元々の性格は明るいのに自分の中で壁を作ってしまったたり、また一人で舞台に出る時は、いつも寿命が縮まる思いでした。

その一方で、音楽の素晴らしさや魅力、面白さに次第に引き寄せられ「上手になりたい。感動の演奏が出来る様になりたい。」と気持ちは強く、努力する喜びも感じられる様になって行きました。

卒業後は留学してもっと研鑽を積みたいと思ったのですが、両親には頼れず、奨学金を頂けるロータリー財団の試験を受けるも残念賞でした。ただ幸いなことに、演奏させて頂く機会やレッスンを受けられる機会はとて多く、目の前の課題に取り組んでいく中で、本当に多くの素晴らしい方々との出会いや、かけがえのない先生との出会いに恵まれ、沢山の方々に育てて頂いて今の自分があることに、改めて感謝の気持ちが湧きあがって来ます。

室内合奏団のエキストラや、神戸市混声合唱団でピアニストを務めていたこともあり、団体行動がやや苦手な私には大変良い社会勉強で、自分の長所短所も良く見える様になり、音楽の幅が広がっただけでなく、色々な面で鍛えて頂きました。

今はフリーで、主に室内楽奏者、伴奏者として活動していますが、ちょうど昨日の演奏会では、昔から憧れていた五人の音楽家と方々と一緒にさせて頂いて、その演奏とお人柄の素晴らしさに大変感激し……いつもどんな状況でも、精一杯の、最高の演奏が出来る様、精進していきたいと、決意を新たにしているところです。

ソロでもまだまだ勉強したい曲があり、一生をかけて磨いて行きたいと思えますが、室内楽の楽しさは格別で、新たな発見の連続でワクワクします。

そして私が大きな温かい先生方に育てて頂いた様に、生徒さんと接して行ける様、勉強を続けて行きたいです。

音楽はいくつになっても心の支えであり、人生そのもの……音楽に出会えたことを、心から幸せに思えます。

* * * * *

50期作曲 石若雅弥

在学中から、歌曲や合唱曲などの声楽作品を中心に作曲してきましたが、現在もそのスタイルは変えずに活動を続けています。

多くの方のご支援を受け、卒業の翌月には最初の個展を開催し、それ以後昨年までに計4回、いずみホールなどで定期的に作品展の機会を持つことができました。また、幸いにも作品は好評で、今では13冊の楽譜を出版し、3枚のCDをリリースするに至っています。

作品が広く歌われるにつれて、演奏者の方々との出会いも増えてきました。そうした交流から学び得たものははかりしれず、それが現在の私の支えとなっているように思えます。

これからもこの交流を大切にしながら、作曲活動に精進したいと考えております。

* * * * *

パッソ・ア・パッソ ～素晴らしい仲間に出会って～
院19期声楽 坂口裕子

京都市立芸術大学大学院を修了後、大きな期待と夢と希望に満ち溢れて足を踏み入れたミラノ。不安なところもありましたが、無事にG.ヴェルディ国立音楽院に入学しました。

声楽科の通常の授業はもちろんのこと、幸運にもオーケストラ指揮科、合唱指揮科、ピアノ伴奏科、室内楽科の歌手としても、授業に積極的に参加させていただく機会を得ました。京芸でたくさんさんのレパトリーを勉強させて頂いたので、全く怖いものなしでした。その時に会った先生方や生徒の方達から、在学中から音楽院内外のコンサートやオペラの機会を頂くようになりました。



2009年には、音楽院のディプロマを頂き、幸運なことに最優秀賞を頂きました。

最近では、今年1月、ベルガモの小さな劇場で、オペラ「ランメルモールのルチア」のルチア役で、しかも作曲者であるドニゼッティの生地デビューさせて頂きました。本番では、ドニゼッティがいるような気がして、なんだか不思議な感覚がありました。終演後、舞台上になると、客席がゴォー鳴りました。拍手とBravaの嵐だったのです。生まれて初めてのことだったので、びっくりしました。緊張と感動から、涙が止まりませんでした。主催者の方も、「あなたがここでデビューを飾ってくれて嬉しい。」と喜んでくださいました。熱狂的なドニゼッティファンの方からも、ルチアへのたくさんの賛辞を頂いたと聞き、本当に幸せに思いました。一生忘れられない経験をさせて頂きました。

この3月にも、「愛の妙薬」のアディーナを、同じ場所で演じました。今回もたくさんの方に支えられて、好評に終わりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また全く違った役を演じるのってなんと楽しいのだろうかと思いました。もうすぐ4月末に、ヴェルディ作曲のオペラ「リゴレット」のジルダを演じます。ミラノに着いて一番最初に歌ったのが、ジルダのアリアでした。そこから、すべてが始まり今に至ります。その様なこともあり、この公演は、初心に帰って演じたいと思えます。まだまだ、足りないことばかりですが、一步一步(パッソ・ア・パッソ)、この素晴らしい出会いたちに感謝して、これからも一つ一つのオペラやコンサートを大切に心を込めて続けていきたいと思えます。

* * * * *

53期音楽学(博士課程1回生) 照屋夏樹

初めて投稿させて頂きます。4月より博士課程(音楽社会学)に進学する照屋夏樹です。大学入学をきっかけに、故郷沖縄を離れて、今年で早7年目。そして京都市立芸大に通い始めて7年目。古株の仲間入りです(笑)

「音楽学って何してるの?」「音楽学って何?」と聞かれた回数は数知れず…。音楽学というのは、音楽に関する学問的研究を行う学問です。「音楽学」といっても、様々な分野があります。演奏をする時に用いる楽譜や作品の成立の背景、作曲家についての研究、音楽理論などの研究に留まらず、哲学、美学、音響学、心理学、民族学、社会学…などといった様々な分野と関連した学際的な研究が行われています。

なかでも、私の専門は、社会と音楽の関係について研究する「音楽社会学」という分野で、大きなテーマは「音楽と平和」です。卒業論文、修士論文では、沖縄の音楽(主にフォーク、民謡)に特化して研究をし論文にまとめました。博士課程でも、沖縄の音楽を切り口に、音楽と社会との関係性を見ていこうと考えています。将来的には、研究を元に、コンサートやワークショップ、本の出版などを通して、故郷沖縄に貢献していきたい、と思っています。

…早速ですが、4月と6月に沖縄で、歌と語り、ピアノによるコンサート『こと葉小箱』を行います。4月のテーマは「いのちの絆」、6月は「清ら地球」。金子みすずの歌から現代の新しい歌と、子どもの詩などを織り交ぜて、家族、友達、先祖、そして自然や命について、何かを感じ考えられるプログラムとなっています。ご興味のある方は、ぜひお声かけ下さい。

2010年皆様のご健闘をお祈りしております。

今号の会員だよりには10名の会員の方より寄稿いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

「子どものうた154」ひかりのくに(株)
簡単に弾けてゴージャスに聴こえるピアノ伴奏譜
年齢別、12ヶ月、275項、2310円(税込)
矢田部 宏(3期作曲)の10曲も記載。
2010年3月発売

真声会 各支部活動報告

京都支部

毎年5月の葵まつりの頃に開催しています、京都支部による「プロムナードコンサート」も今年で27回目になりました。爽やかな青葉の季節にふさわしく、出演者の清々しく内容の充実した演奏に、毎回多くのお客様からご好評を頂いております事をお喜び申し上げます。

今年も5月16日(日)午後2時より府民ホール「アルティ」に於きまして、次のように第27回プロムナードコンサートを開催致します。皆様のご来場をお待ちしています。

◇ドビュッシー「ヴァイオリン・ソナタ ト短調」他

細川 泉(54期Vn)／林 貴子(Pf賛助出演)

◇ウェーバー「大協奏的二重奏曲 変ロ長調」

柳楽由美子(38期Cl)／宮崎友香子(38期Pf)

◇ラフマニノフ「ピアノ連弾のための6つの小品」

田代晶子(18期Pf)／西谷玲子(21期Pf)

◇ヴェルディ「弦楽四重奏曲 ホ短調」

山本 綾(50期Vn)／木須すみれ(51期Vn)／岡田真理子(53期Va)／

江口陽子(51期Vc)

◇ファリャ「はかなき人生」より スペイン舞曲 第1番／

ラヴェル「スペイン狂詩曲」

蜂谷葉子(29期Pf)／大岡真紀子(29期Pf)

また、6月13日(日)午前10時から、同志社同窓会館(大ホール)に於きまして、昨年に引き続き、京都バツハ合唱団主宰をはじめ、各方面で合唱指揮者として幅広く活躍されています、京都支部会員の本山秀毅氏(28期声)を迎え、女声合唱団「コール真声会」の協力を得ての企画講座Vol.12を開催します。会員に限らず一般の参加者も大歓迎で、昨年にも本山先生の内容の豊かで楽しいご指導のもと大変盛り上がりましたが、これからもこの企画講座が仲間の輪と和が広がる、魅力ある学びの場となります事を願っています。

尚、真声会京都支部のホームページにも活動内容をその都度お知らせしていますので、ご覧頂けましたらうれしく存じます。http://shinseikai-kyoto.com

長年に亘り暖かくご協力頂き、京都支部を支えて下さっています支部会員をはじめ、真声会や多くの皆様のお力添えに感謝をしながら、役員一丸となって京都支部活動を更に充実させて参りたいと思います。

支部長 山田晏子(10期声楽)

大阪支部

大阪支部で催しているプロムナードコンサートの一環として、金蘭会中・高等学校「校内音楽会」を1月29日(金)の放課後に行いました。大阪支部会員にお届けする支部報の発送は、支部事務局長の樋口博行さん(27期Pf)がお勤めの同校内の会議室をお借りして、時に生徒さんにも手伝っていただいております。常々、学校側のご厚意に感謝したく、世話役会で話していた「お礼の意を込めた演奏会」が、実現したのです。

金蘭会高校は吹奏楽部の活動が盛んで、各種コンクールでも優秀な成績を収めておられます。校舎がすっかり建て替わって、3階にウィステリアホールという600名収容の立派なホールがあり、そこで行いました。

3組の生徒さんたちの演奏(フルート四重奏、ファゴット独奏、マリンバ独奏、ピアノ伴奏はいずれも樋口さん)のあと、Sop康瑛(31期)・Cl西川香代(45期)・Pf五嶋利恵(41期)の三人による「シューベルト:岩の上の羊飼」、西川さんのクラリネットソロ「ストラヴィンスキー:クラリネットソロのための3つの小品」、Sop中島慈子(10期)・Pf樋口で「中国地方の子守唄」「落葉松」を演奏しました。演奏後、ハプニングでクラリネットの生徒さんからレッスンの依頼があり、西川さんが一時間余り指導、生徒さんは貴重な体験で感激だったと、後日聞きました。

真声会の皆様で学校にお勤めの方、上記のように、生徒さんに身近に生の音楽を届ける「校内音楽会」を計画なさいませんか? ご依頼お待ちしております。

支部総会は、5月29日(土)11時半から、ホテルグランヴィア大阪の「北京」で開かれます。一年のまとめと今後の活動について話し合います。もちろん中華ランチを囲んで大いに親交を深めます。今年は2年ぶりにプリリアントコンサートを「コンセール・ア・ラ・カルト」と題して、9月26日(日)15時開演、大丸心斎橋劇場で行う予定です。

大阪支部に関するお問い合わせ・入会は、事務局545-0004大阪市阿倍野区文の里4の12の25樋口博行方、電話とファクス06-6624-3425まで。

広報担当 金森重裕(6期Cl)

奈良支部

今回はまず、奈良支部通信の内容が大きく変わりつつあることを皆さまにお伝えしたいと思います。支部通信制作担当の山口暁子さん(42期Pf)が、今までの情報発信中心の内容から、より一層「会員の“声”」でできている会報に変身させてくれています。そのおかげで、どの会員がどのような音楽活動をしているのか、幅広い教養を高めるた

め日々どんな努力をしているのか、生活を通じて会員同士がどんな交流をしているのか等々、が分かるようになりました。これからの支部通信がますます楽しみです。

さて、今年は遅まきながら、新年役員会を1月末に開催し、昨年行わなかった定期演奏会を今年ぜひ開催すること等、今年の年間主催行事について話し合いました。早速、こちらの希望月日と予定のホールの空き具合に関し日程調整を行い、何とか年内実施(12月10日(金)午後6:30~秋篠音楽堂)にこぎつけ、ちょっと一安心しているところです。現在、支部通信(第61号)にて出演希望を募っていますので、奈良支部会員と共演したいと思われる方もぜひご一報ください。会場の秋篠音楽堂は、近鉄大和西大寺駅すぐで、近鉄百貨店も入っている奈良ファミリー6階にあり、音響的にもとても優れたホールです。皆さまお誘い合わせのうえ、ご来聴いただければうれしく存じます。

今年の支部総会は6月6日(日)に前回「音出し会」と同じ前川典子さん(39期打楽器)の“スタジオかまぼこ”をお借りして、総会・懇親会として開催することにしています。有意義だった前回「音出し会」の主旨を引き継ぎ、気軽に集まり、同窓の心のつながりを音楽に活かして、和気藹藹の中、奈良支部の一層の発展を図りたいと考えております。

支部長 高橋せつ子(16期打楽器)

関東支部

昨年10月第14回定期演奏会を開催してから半期、関東支部の後援によるコンサートが二つ開催されましたのでご報告いたします。

「神代稔子・ピアノアンサンブルdouxジョイントリサイタル」3月6日(土) 狛江エコルマホール……31期ピアノ神代さんが、「狛江でクラシック vol.1」と称して、地元(東京郊外狛江市)の方々にクラシック音楽を楽しんでもらおうと企画し、自らも独奏、またナビゲーターも務めたユニークなコンサートです。かねてより一緒に活動していたピアノ科同窓生有志のピアノアンサンブルdouxのメンバーが共演(23期細川裕美子、27期曾我尚江、30期黒田智美、30期丸山慶子、32期奥田章子、32期高橋知子、34期高橋律子)、プログラムはベートーヴェン:テンペスト、ショパン:バルカローレ、モーツァルト:2台のピアノのためのソナタ、ラフマニノフ:2台のピアノのための組曲第2番、シャブリエ:狂詩曲「スペイン」他。

「フランス音楽への誘い」3月7日(日)日仏会館……32期ピアノ元木いずみさんが、実のお姉さんである高塚桂子さんとともに開催したデュオリサイタル。お二人はそれぞれ渡仏して研鑽を積み、こうしたデュオコンサートは数回開催、高い評価を得ています。今回はフランク:プレリュード、フーガと変奏曲、サンサーンス:死の舞踏、ドビュッシー:牧神の午後への前奏曲、ミヨー:スカラムーシュ他、タイトルの通りたつぷりとフランス音楽を紹介したこだわりのプログラム。フランス大使館の後援も得て、14日には大阪でも開催されました。

関東支部ではこれからも、それぞれのエリア、それぞれのスタイルで意欲的に活動している同窓生のみなさんを何かの形で支援できたらと考えています。

第14号会報Harmonyも編集活動を開始しました。今回のインタビュー記事「この人にきく!」にご登場いただくのはオペラで大活躍の30期声楽黒田博さん。先日楽しいお話をたつぷりうかがってただ今編集中です。5月11日(火)には、銀座キハチにて第15回総会及び懇親会を開催予定、すでに決まっている10月2日の定期演奏会を見越して、例年より少し早めの新年度スタートとなります。

曾我尚江(27期ピアノ)

中部支部

桜花の便りがちらほら聞かれる3月14日、名古屋市中区伏見「ヤマハ名古屋研修センター」にて「中部支部」設立総会が開催されました。

昨年12月、支部設立についての案内を中部地方(愛知、岐阜、三重、福井、石川、富山、長野、



静岡県)在住の真声会会員の皆様170名に送付しました。

54通の返信ハガキが届き、設立主旨に多くの方々のご賛同をいただきました。

年度末で何かとご多忙な中、内19名の方が、総会にご出席下さいましたことを心よりお礼申し上げます。大村会長からの祝辞も届けられ、発起人一同、新たな出発に際し、身の引き締まる思いでこの日を迎えました。

「支部会則(案)」の審議では熱心に耳を傾けて下さり、貴重なご意見を頂戴しました。検討を重ねた結果、少しの手直しを残しまして無事、承認を得ることができましたことを感謝申し上げます。

各委員は、支部長兼会計/中島百合子(19期作)、副支部長2名/井上正彦(16期Tp)・和泉正憲(19期打)、広報/野々口義典(23期Hn)・池村明子(48期Vn)、会計監査2名/近藤義良(2期作)・水無瀬一成(48期Hn)、委員補佐/米田一幸(33期Tp)にお願いできましたこともここにご報告させていただきます。

きます。

堅苦しい雰囲気がかき解れた会半ばでは、発足記念として有志の方々による「独唱」「弦楽四重奏」「弦とホルンのための6重奏」のミニコンサートが行われ、2期生から52期生の幅広い同窓生が集う和やかなひとときとなりました。

昨年末に支部設立についての案内がお手元に届かなかった方は、お手数ですが19期中島までご連絡下さいますようお願い致します。

皆様のお力添えあって4月1日よりささやかではありますが、ようやく「中部支部」の灯がともりました。後輩に受け継いでいただきながら灯し続けることができますよう、委員一同頑張りたいと思っております。これからもご支援を何卒よろしくお願い致します。

支部長 中島百合子(19期作曲)

真声会からのお知らせ

同窓会事務室が月・水・金の週3日稼働しています!

音楽学部同窓会事務室は2009年7月の総会決議による学生会員の誕生による学生会員対応による業務拡大にこたえ、このたび月水金の週3日の稼働となりました。美術学部と同室で、美術学部・音楽学部同窓会事務室として同窓会業務を行っております。皆様、ぜひお気軽に専用電話番号にご連絡ください。本部役員が会員業務に関するお問合せに直接お答えします。

開室日: 毎週月曜日・水曜日・金曜日(10:00~15:00)

*年末年始、お盆、祝日及び学内立ち入り禁止期間(入試等)は休業します。

専用電話番号 080-6185-4494

開室日以外にお電話を頂いた場合、留守番電話にお名前とご連絡先を録音して頂ければ、開室時間中に同窓会事務室より連絡いたします。

お詫び

昨年度会員証が発行され、会費納入の方に前回会報に同封しましたが、作業段階でのミスで一部の方に同封されていなかったことが判明しました。数名の方にご迷惑をおかけしましたことを、お詫び申し上げます。

役員改選

来年度、本部役員の改選が行われます。つきましては、役員の方の立候補者を募集いたします。

立候補の意志のある方は、10月末日までに、同窓会室へご連絡いただくか、現本部役員にご連絡ください。

京芸だより

~定期演奏会をぜひ聴きにいらしてください~

来たる7月4日(日)午後2時より、響/都プロジェクト京芸ルネッサンス2010コンサートシリーズ京都市立芸術大学創立130周年記念京都市立芸術大学音楽学部第134回定期演奏会が京都コンサートホール大ホールにて行われます。

今回は、リクエストシリーズでグリム作曲「ルスランとリュドミラ」序曲に始まり、プロコフィエフ作曲ピアノ協奏曲第3番を学内オーディションで選抜されたピアノ専攻3回生、浦山瑠衣さんの独奏、チャイコフスキー作曲第4番をお楽しみいただきます。

真声会の会員の皆様は、無料でご入場いただけます。会員証をお示しください、会場受付で卒業・修了期、専攻、お名前をお知らせください。

また、会員サービスであります、会報内に印刷されてある真声会会員券をぜひご利用ください。この会員券は、会員さまご本人、ご家族、友人知人のかたなどがご利用可能です。

皆さまのご来場をこころよりお待ちしております。

日時: 2010年7月4日(日)午後2時開演(午後1時開場)

会場: 京都コンサートホール 大ホール

曲目: グリム: 歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
プロコフィエフ: ピアノ協奏曲第3番
チャイコフスキー: 交響曲第4番

出演: 指揮: 増井信貴(本学教授) ピアノ: 浦山瑠衣
管弦楽 京都市立芸術大学音楽学部管弦楽団

※午後1時15分よりホワイエにて

柿沼敏江教授のプレトーク&学生によるプレコンサートがあります。

入場料: 1,200円(全席自由)

主催: 京都市立芸術大学 協力: 京都市立芸術大学音楽教育後援会

問合せ先: 京都市立芸術大学企画広報課075-334-2204

真声会会員の コンクール等 受賞者

- ・第63回全日本学生音楽コンクール大阪大会本選(平成21年10月26日、ザ・フェニックスホール) 大学・一般の部 第2位 大学院声楽専攻1回生 田内 愛
- ・第63回全日本学生音楽コンクール大阪大会本選(平成21年10月26日、ザ・フェニックスホール) 大学・一般の部 入選 声楽専攻3回生 泉 萌子
- ・第19回日本クラシック音楽コンクール全国大会(平成21年12月8日、杉並公会堂小ホール) ジュニアの部声楽部門 第4位(女子) 声楽専攻3回生 泉 萌子
- ・万里の長城杯国際コンクール(平成22年3月27日、ピッコロシアター(尼崎市)) 優秀賞 平成19年度声楽専攻卒業 高橋 純

切り取り線

京都市立芸術大学音楽学部 第134回定期演奏会

音楽学部同窓会真声会 会員券

2010年7月4日(日) 14時開演(13時開場)

京都コンサートホール大ホール

切り取り線



京都市立芸術大学創立130周年記念事業 第25回大学院オペラ公演《椿姫》



去る2010年2月19日・20日、京都会館第2ホールにて大学院オペラ《椿姫》が上演されました。両日とも会場にはたくさんのお客様がいらっしゃり、大盛況のうちに終わりました。学生たちは、一年間の勉強の成果を存分に発揮し、素晴らしい演奏と演技を見せてくれました。

出演した院3回生の安藤るりさん(52期:20日1幕ヴィオレッタ)と、院2回生の砂場拓也さん(53期:19日ジェルモン)から寄稿していただきました。(年次は2月現在)

始まりはいつも『椿姫』

安藤 るり

2010年2月20日。この日は、声楽を始めた時からの、『椿姫』の舞台に立つ、という夢が叶った日として、私にとって忘れられない日になりました。

私のオペラとの出会いは、中学生のときに見たメトロポリタン歌劇場の公開ドレスリハーサルでした。初めて見たオペラが『椿姫』だったのです。

でも、私にとっての『椿姫』は最悪のスタートとなりました。昨年、一年間の交換留学を終えた帰国直後のオーディションでは、本当に頼りない歌しか歌えませんでした。この時、私は「歌う」ことへの自信を完全に失っていて、ヴィオレッタ役を演じるのに必要な気力も体力も持ち合わせていなかったように思います。演目が『椿姫』に決まった時すでに、ヴィオレッタは私には無理だ…と心のどこかで線を引いてしまっていたのかもしれませんが。実際に音楽稽古が始まってからも、なかなかヴィオレッタと私との距離が縮まらず、苦しい毎日でした。それでも私が声楽を始めるきっかけとなった大好きなオペラということもあって、演じきりたいという想いが日ごとに増し、少しずつ舞台に立つ自覚が持てるようになりました。

立ち稽古に入り、自分の不甲斐なさに何度も涙しましたが、先生の厳しくも温かいご指導のおかげで、前を向いて自身を持って歌えるようになっていきました。私だけではなく、このオペラにキャストとして舞台に立った全員が、それぞれに苦しみながらもレベルアップしていた姿は、今でも目に焼き付いています。

今年は、記念行事の一つとしての大規模な公演でしたので、プレッシャーも大きいのだろうと不安でしたが、反対に今まで経験したことのない良い緊張感の中で本番に臨むことができました。会場入りしてからは、集中力も増して、本番はとても楽しく自由に歌わせていただきました。

「自由に歌う」、これは私にとってとても大きな壁でした。今回それをクリア出来たのは、指導して下さった先生方のおかげです。音楽稽古から本番までじっくり一緒に音楽を作ってく下さった阪哲朗先生、一学生として、また一歌い手として真摯に私たちと向き合ってく下さった松本重孝先生、そして最後まで私たちの可能性を信じ、導き続けて下さった声楽専攻の諸先生方、『椿姫』を歌うことに必死になっていた私たちを様々な方向から刺激し、壁を打ち破るヒントを与えてくださいました。自身を失っていた大学院生活の最後に、舞台上で歌うことの幸せをまた思い出すことができ、やっぱり私は歌の道を進みたいとこれからも歌い続けていく覚悟ができたように思います。



最後までそれぞれの役を演じきった私たちは、進む道は様々ですが、今回のこの大きな経験を自信に変え、自分たちの選んだ道を歩んでいきます。

最後になりましたが、この公演を温かく見守ってくださいました関係者の皆様、また、多くの支援を賜りました真声会の皆様に厚く御礼申し上げます。

ジェルモンを振り返って

砂場 拓也

最初に椿姫をやる事になった時は正直驚きました。何故なら学生がやるには余りに難しく大変であるからです。自分がジェルモンをする事も御指導頂いた先生方間で最後まで議論していた様です。学生にしかも演技力の乏しい自分にジェルモンという重要な役をこなすのは難しいのではないかと。しかし一方、自分ではこんなチャンスめったにないと必死になって勉強しました。厳格な心優しい父の役になるにはどうすれば良いのかと。幸いにも自分の家の父がジェルモンの性格と近かったのですから色々学ぶ事が出来ました。厳しい面、優しい面などジェルモンとして必要な人格を父のいつもの所作を交えながら考えていきました。それと平行して歌唱の方でもとても苦労しました。ジェルモンは高音が多くヴィオレッタとの二重唱はまだしも〈プロヴァンスの海と陸〉というアリアがありました。練習当初は二重唱すら危うくアリアなど歌える兆しが見えなかったくらい悲惨なものでしたが師匠の折江先生の御指導もあり徐々に高音も出る様になりアリアも少しずつ歌えるようになってきました。とはいえプロの人に聞いてもキツイと言わしめるこのアリアは最後まで悩みの種でした。やはり見せ場のアリアで失敗したくないという気持ちがあったのでどうすれば高音を克服出来るか自分なりにあらゆる歌唱の技術を試しました。しかしながら、本番では自分のやってきた事を出し切るしかなかったので上手く歌おうなどという事は既に自分の頭にはありませんでしたが。結果的に本番までの思考錯誤が自分にとっては大きな前進となっていました。

ヴィオレッタとの二重唱の方はもっぱら演技と表現に磨きをかけなければなりません。ジェルモンは父としての家族愛を、ヴィオレッタは恋人としての恋愛感情を互いにぶつけ合うこの場面はこのオペラで最も劇的で重要なシーンであると考えられます。ジェルモンの感情は怒り・優しさ・哀れみと様々に入れ替わりヴィオレッタの気品溢れる姿と思いやりの深さに最後は涙する様を演じなければなりません。その中で優しさ・哀れみを出すというのが特に難しく、それは自分の日常的な性格も反映される部分でもありました。まっすぐな優しさや哀れみの気持ちというのは表面づらだけで出せるもなく師匠の折江先生にも「もっと人の温もりや優しさを知れ」と常々言われました。その事もあり、人に何かをしてもらう時の有り難みや、人に思ってもらう事の有り難みを再認識する事が出来ました。その経験をもとにヴィオレッタの事情を思いやる気持ちが生まれ二重唱に真実味を付ける事が出来ました。この二重唱はそういった面で非常に苦労の多いシーンでした。

今回の椿姫は自分だけでなく他のキャストのみんなもとても苦労をして全てのシーンを作っていました。しかしそれは声楽家として一番楽しい幸せな時間だったと思います。



真声会後援の演奏会

♪歌曲のタベ ~日本とフランス・テノールとバリトンによる~

日時：2010年1月9日(土) 18:00
会場：京都市呉竹文化センター 創造活動室
出演：和田宏一(42期声) 他
曲目：フォーレ ネル、夢のあとに、月の光
山田耕筈 かやの木山の、この道、六騎 他

♪アフター・アワーズ・セッション 20世紀の室内楽Vol.3

日時：2010年3月5日(金) 19:00
会場：ドルチェ・アーティスト・サロン
出演：南出信一(22期Cb) 松原央樹(29期Cl) ギオルギ・バブアゼ(Vn) 他
曲目：S. プロコフィエフ 五重奏曲Op.39
B. マルティヌー 3つマドリガルH. 313
H. ヴィラニロボス ブラジル風バッハ第6番 他

♪神代稔子・ピアノアンサンブルdoux ジョイントリサイタル

日時：2010年3月6日(土) 14:00
会場：狛江エコルマホール
出演：細川裕美子(23期Pf) 曾我尚江(27期Pf) 黒田智美(30期Pf)
丸山慶子(30期Pf) 神代稔子(31期Pf) 高橋知子(32期Pf)
奥田章子(32期Pf) 高橋律子(34期Pf)
曲目：ベートーヴェン ピアノソナタ第17番ニ短調作品31-2「テンペスト」
モーツァルト 2台のピアノのためのソナタ イ長調より
ラフマニノフ 2台のピアノのための組曲第2番より 他

♪古都de古典

日時：2010年3月14日(日) 14:00
会場：京都府庁旧本館正庁
出演：津田佐代子(45期Fl) 他
曲目：バッハ フルートソナタC-dur、バッハ 管弦楽組曲h-moll 他

♪小玉晃バリトンリサイタル

日時：2010年3月21日(日) 15:00
会場：兵庫県立美術館ギャラリー
出演：小玉晃(37期Vo) 丸山耕路(Pf)
曲目：シューマン 《詩人の恋》 他

♪右近恭子ピアノリサイタル

日時：2010年3月22日(月) 18:00
会場：イシハラホール
出演：右近恭子(25期Pf)
曲目：シューマン ソナタ嬰へ短調/ショパン ソナタロ短調
シェーンベルク 6つの小品 他

♪マキシム・クラブホフ 香取由夏ピアノジョイントリサイタル

日時：2010年4月4日(日) 14:30
会場：青山音楽記念館バロックザール
出演：香取由夏(46期Pf) マキシム・クラブホフ(Pf)
曲目：ベートーヴェン ピアノソナタ第30番Op.109
シューマン 交響的練習曲Op.13 他

♪まり&リム~パリからやって来た親子ユニット、リムの楽しいコンサート with西園真理 -クラシックからジャズ、シャンソンまで-

日時：2010年4月25日(日) 14:00 ※火山噴火の影響で中止
会場：ムジークシュレ大阪
出演：西園真理(31期Vn) 戸田ドブラエル昭子(Vo.Pf) 他
曲目：カール・ライネケ 3つのファンタジーより
ブラームス 2つの歌Op.91
ブルッフ スウェーデンのダンスOp.63より 他

♪ジョイントリサイタル ~チューリッヒより愛を込めて~

日時：2010年4月25日(日) 15:00
会場：青山音楽記念館バロックザール
出演：附田恵里子(21期声) 平田道子(25期Pf)
曲目：ヘンデル 「ジュリアスシーザー」より この胸に息のある限り
プッチーニ 「ボエーム」より ムゼッタのワルツ
モーツァルト ヴァイオリンとピアノのソナタK.454
ブラームス ヴァイオリンとピアノのソナタOp.78 他

♪京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会京都支部による 第27回プロムナードコンサート

日時：2010年5月16日(日) 14:00
会場：京都府立府民ホール アルティ
出演：細川泉(54期Vn) 柳楽由美子(38期Cl) 宮崎友香子(38期Pf)
田代晶子(18期Pf) 西谷玲子(21期Pf) 山本綾(50期Vn)
木須すみれ(51期Vn) 岡田真理子(53期Va) 江口陽子(51期Vc)
蜂谷葉子(29期Pf) 大岡真紀子(29期Pf)
曲目：ドビュッシー ヴァイオリンソナタ ト短調
ヴェルディ 弦楽四重奏曲 ホ短調
ラヴェル スペイン狂詩曲 他

♪「ベートーヴェン35のソナタ」

多川響子 ピアノソナタ完全全曲リサイタルVol.4
日時：2010年5月23日(日) 15:00
会場：青山音楽記念館バロックザール

出演：多川響子(44期Pf)
曲目：ベートーヴェン ピアノソナタ第27番Op.90、第26番Op.89a「告別」、
第7番Op.10-3、第8番Op.13「悲愴」

♪ピアノアンサンブル doux Vol.4

日時：2010年6月5日(土) 15:00
会場：スタインウェイ東京 松尾ホール
出演：斉川永子(21期Pf) 奥田章子(32期Pf) 高橋知子(32期Pf)
高橋律子(34期Pf) 小屋聖子(35期Pf)
曲目：J. S. バッハ 目覚めよ呼ぶ声がきこえ
山田耕筈 小さなボエム、ピアノのための「からたちの花」
平井康三郎 幻想曲「さくらさくら」
ムソルグスキー 「展覧会の絵」より 他

♪Felice Cantabile ~ピアノ デュオの愉しみ Vol.2~

日時：2010年6月27日(日) 15:00
会場：青山音楽記念館バロックザール
出演：水野雅子(26期Pf) 辰巳くみ子(Pf)
曲目：J. S. バッハ チェンバロ協奏曲第1番BWV1052より
P. デュカス 魔法使いの弟子
S. ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番Op.18 他

♪大石和子ピアノリサイタル

日時：2010年7月1日(木) 14:00
会場：カワイ表参道コンサートサロンパウゼ
出演：大石和子(22期Pf)
曲目：モーツァルト デュポールのメヌエットの主題による9つの変奏曲K.537
ベートーヴェン ソナタ第14番「月光」
ショパン バラード第3番 他

♪藤原さおり ソプラノリサイタル~ロシアの調べ~

日時：2010年7月3日(土) 15:00
会場：サンスクエア堺
出演：藤原さおり(46期声) クラウディオ・ソアレ(S) (Pf)
曲目：チャイコフスキー オペラ《エフゲニー・オネーギン》より
タチアナの手紙のアリア
グリンカ 教えてなぜ、マルガリータの歌
ダルゴムイスキー 私は悲しい、16歳 他

♪高木知寿子ワルシャワピアノトリオ Ensemble in Kyoto

日時：2010年7月24日(土) 19:00
会場：京都コンサートホール アンサンブルホール・ムラタ
出演：高木知寿子(27期Pf) ピオトル・ツェギエルスキー(Vn)
カジミール・コシュラーチェ(Vc)
曲目：メンデルスゾーン ピアノ三重奏曲第1番 ニ短調Op.49
ピアソラ プエノスアイレスの秋
ブラームス ピアノ三重奏曲第1番 ロ長調Op.8

♪ピアノトリオのタベ

日時：2010年8月25日(水) 19:00
会場：大田区民ホール アプリコ小ホール
出演：鈴木梨津子(24期Pf) 前田勝則(Pf) 松稜(Vc)
曲目：トゥリーナ ピアノ三重奏曲第1番
フォーレ ピアノ三重奏曲Op.120
ベートーヴェン ピアノ三重奏曲第7番「大公」

♪J.S.Bach 12人12色 平均律クラヴィーア曲集/全曲演奏会Vol.3

日時：2010年9月5日(日) 14:00
会場：青山音楽記念館バロックザール
出演：古川五巳(元助教授) 山下由香(26期Pf) 嶋雅子(28期Pf)
大畑博貴(29期Pf) 駒田さよ子(29期Pf) 吉田公美子(30期Pf)
松村佳奈(31期Pf) 佐々木和佳(34期Pf) 田村幸造(36期Pf)
岡田ミサ子(37期Pf) 姫野真紀(38期Pf) 石田香織(40期Pf)

曲目：J. S. バッハ Das Wohltemperierte Klavier Vol. II No.1~12

♪山口梨紗ピアノリサイタル

日時：2010年9月20日(月) 15:00
会場：青山音楽記念館バロックザール
出演：山口梨紗(50期Pf)
曲目：ブラームス 6つの小品
ショパン バラード第1番Op.23、第4番Op.52 他

♪大畑博貴ピアノリサイタル

日時：2010年10月8日(金) 19:00
会場：青山音楽記念館バロックザール
出演：大畑博貴(29期Pf)
曲目：ベートーヴェン ピアノソナタ第5番、第8番、第14番、第32番

※演奏会の真声会後援および会報掲載は会費納入者のみとさせていただきます。どうぞご了承ください。

訃報

池田麻里氏(35期ピアノ) 22年1月10日ご逝去されました。
井上亮淳氏(8期作曲) 22年2月5日ご逝去されました。
つつしんで心からお悔やみ申し上げます。

編集後記

3月、桜が咲いたと思ったら雪が降り、4月に入ってもまだ雪が降る。テレビで「ジグザグ天気」と話していましたが、まさにその通りですね。寒い日と暑い日が交互にやってきて、体調管理が大変です！私も出演した3月末の合唱の演奏会では、直前の合宿中に団内で風邪が蔓延し、本番は無事終えられたものの、指揮者をはじめメンバーに風邪ひき続出。花粉も飛び交うこの季節、もう何がなにやら…。ただ思うことは、時の経つのはなんと早いか！桜だ雪だと言ってる間にGW、過ぎればもう夏が目前です。(O)